

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	16
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	4
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1. 一人ひとりの把握	2
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1. その人らしい暮らしの支援	13
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	41

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 4月 7日 開始 10時00分 ~ 終了 16時10分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム こいて _____ (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>星野 久美子</u> 氏名 <u>内藤 通</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>岡 八千代</u> ヒアリングを行った職員数 (3)人

項目番号について
外部評価は41項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。
[取り組みを期待したい項目]
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。
[取り組みを期待したい内容]
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

評価確定日 平成21年5月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1595200013
法人名	社会福祉法人 桜井の里福祉会
事業所名	グループホーム こいて
所在地 (電話番号)	新潟県西蒲原郡弥彦村矢作4623番地 (電話) 0256-94-1280
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア-普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年4月7日

【情報提供票より】(21年3月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算 8.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	180 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		1 名	要介護2		2 名	
要介護3		2 名	要介護4		2 名	
要介護5		2 名	要支援2		名	
年齢	平均	90.5 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	堤内科医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年に村が運営していた事業を当法人が受託している。法人は特別養護老人ホームや在宅サービス等を展開し、「もう一つの我が家づくり」「地域の共有財産になりたい」と地域に根ざした運営を行っている。ホームは小高い丘陵地にあり、広大な景色を眺望でき、畑や散歩道がある自然に恵まれた環境である。開設当初から飼っているペットが利用者の心の癒しになっており、穏やかな雰囲気を出している。法人とは行事や受診時等の協力・応援態勢ができており、密に連携してサービスを提供している。職員は利用者を家族と思い、「我が家」の暮らしが温かく和やかなものになるように、共に過ごせる時間を大切に接している。管理者は母親的存在でスタッフの成長が期待され、一丸となり取り組んでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題は、介護計画の更なる見直しであったが、作成方法をパソコン対応に切り替え中であり、職員全員で取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に意義と目的を伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。普段当たり前にやっているケアを振り返り見直すきっかけになっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的に行っており、ホームの現況報告や情報交換をして、意見を受けている。ホームの理念や実情を理解してもらい、地域とホームのより良い関係を築いている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見等は苦情相談窓口や意見箱を設置し表出する機会を設けている。家族からは面会時に直接話してもらっており、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域行事やイベントへの参加、納涼祭等ホーム行事の実施、ボランティア、小中学生の受け入れ等、運営推進会議を通しホームから積極的にかかわり、「地域の一員」として支えあう交流ができています。災害訓練等でも地域との連携ができており、日頃からホームを気にかけてもらっている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	村から事業を受託した際に、全職員で地域密着型サービスとしてどのように利用者に向き合うかを話し合い、「共に笑い、楽しく過ごせるこの時間を大切に」「家族との信頼関係 地域の人たちとのふれあいを大切に」...等、6つの事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付く所に掲示し、朝のミーティング時には夜勤者が法人理念を読み上げ意識付けしている。ホームの理念は全職員が事業所として当たり前のことと認識しており、常に意識し合い、実践に向け取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	パンフレットやホームだよりに掲載、家族等に送付している。ホーム内に掲示したり、運営推進会議、行事、法人のホームページ等、多様な機会を捉え家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事やイベントへの参加、納涼会等ホーム行事の実施、ボランティア・小中学生の受け入れ、隣接公共施設との行き来、地元食料品店の移動販売等、運営推進会議を通し、ホームから積極的にかわり訪問者を温かく迎え、「地域の一員」とし支えあう交流ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が意義を理解し、外部から普段気づかないことの指摘を受け、より良いサービスに繋がりたいという思いで、話し合いを重ね自己評価を行っている。前回の評価結果は運営推進会議で報告し、職員全体のフロア会議で話し合い改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催しており、入居者の利用状況や行事・訓練結果、スライドで日頃の生活風景等報告し、内3回はホーム行事も兼ね出席者同士の親睦を図る中で、普段言えない本音を聞いている。実情や理念を理解してもらい地域とのかかわりを検討する大事な機会としており、意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村の担当職員とは、地域行事やホームの実情を情報交換したり、生活保護の利用者や後見人制度の利用について相談する等、定期的に行き来する関係ができている。村の地域包括支援センターは同法人が事業を受託しており、運営推進会議以外でも連携しやすい体制にある。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し、法人内外の研修やホーム内の会議等で学ぶ機会を持っている。法人理念である「利用者、家族の権利を守り、当たり前の生活の保障」が実践できるよう、職員間で注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームだよりや預り金報告書の定期的な送付、面会・行事参加時、電話、運営推進会議等で暮らしぶりについて、個々にあわせた報告をしている。ホームだよりでは家族の希望で写真を多く掲載し、職員の異動についても伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や意見箱を設置し、法人では第三者委員会やメールアドレスを明示し、意見を表せる機会を設けている。実際には面会時等で直接話してくださる方が多く、運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや毎月の職員全体のフロア会議にて、意見や提案を聞く機会を設けている。週1回、県の認知症高齢者ケアのスーパーバイザー活動もしている事務長がミーティングに参加し、職員の意見を聞き、相談に応じて運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者はグループホームにおいて馴染みの関係が大事であると考え、異動を最小限に抑えるよう努力している。代わる場合は、新人教育を徹底し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	法人マニュアルは玄関にあり、自由に閲覧できるよう配慮している。ホーム独自のマニュアルも整備され、会議等で周知徹底を図り、随時見直している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では研修委員会が中心となり、実践に活かせるケアの訓練を含め、勤続年数に応じた研修の年間計画を立て、内外研修を受ける機会を確保している。また人事考課を取り入れ、向上心を持って働くことを支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム情報交換会が組織され交流を図っている。近隣グループホームと年1回交換研修を実施し、ケア方法や共有空間づくり等、相互のサービスの質の向上に繋げる取り組みを行っている。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者と管理者、職員は意見を言い合える良好な関係ができています。休憩時間を利用し、日常的に何でも話し合う機会としている。法人は厚生労働省所管の財団が勧める「職場風土改革促進事業実施事業主」の指定を受け、ストレス軽減と働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から、見学やディサービスを体験し、徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。担当ケアマネージャーから情報を把握し、本人・家族の希望や思いを受け止めサービスを開始できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にもある共に暮らすことで「おばあちゃんの知恵袋」を学び、感謝し合い、落ち込んだ時に気遣い合う等支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	大切な家族をお預かりしていることを常に考え、情報交換を密にし、家族との信頼関係を築きながら、ともに本人を支え理念である「もう一つの我が家」づくりの実現に努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの関係を築きながら、傾聴の姿勢で話をよく聞き、一人ひとりの希望や思いの把握に努めている。困難な場合は、表情・行動からくみ取るようにし、家族や関係者に聞き、本人本位に検討している。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時に本人・家族から話を聞き、ケアマネジャー・関係者から情報収集し、一緒に過ごす中で今まで培った生活スタイルを大切にこれまでの暮らしの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当者と計画作成担当者、管理者が中心となり職員全員で話し合い、本人・家族の意見や希望を反映した介護計画を作成している。法人内で統一したパソコンでの情報・計画の管理に取り組み始めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回の評価結果より、日頃からチェック項目による評価、短期目標の立案を工夫する等で、3ヶ月に1回モニタリングやカンファレンスを行い見直しを実施している。利用者の状態変化を見逃さず、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望や状況に応じ、自宅への外出・外泊、ホームでのディサービスやショートステイ等で多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診を法人の協力を得て支援している。提携医の2週に1回の往診や緊急時対応、法人と契約している看護師の週1回の訪問と24時間オンコール体制ができており、適切な医療を受けられる体制づくりをしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは看取りの指針を策定しており、入居時や状態変化時に本人・家族・関係者と話し合い、全員で方針を共有している。提携医や非常勤看護師と連携を図り、チームで支援できる体制づくりをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時はさりげない言葉掛け、対応に配慮している。記録は目に触れないところで記入し、鍵のかかる場所に保管している。文章、写真の掲載は本人・家族に許可を得ており、「利用者・家族の権利を守る」支援をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やペースが把握できており、「もう一つの我が家」として、自由にゆったり過ごせるように配慮している。声かけはするが無理強いせず、その日の状態により希望を優先した支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好や力を活かしながら献立作り、買い物から一連の食事作りを一緒に行っている。とくに五感刺激を大切にされた支援に勤めており、畑で採れた新鮮な野菜等を使い、食事を楽しみなものとしている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導で失敗やおむつの使用を減らし、自立に向けた支援を行っている。自立したことにより、生活が安定し、表情も明るくなった事例がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望やタイミング、体調にあわせ、ほぼ毎日の入浴を支援している。仲の良い人同士で一緒に入り、会話を楽しく大切な時間としている。拒否の方には無理強ひせず、時間・日を考慮して対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦、得意なこと、できることを活かし、三味線、塗り絵、畑仕事、買い物、ドライブ等出番を見出し、理念にある「共に笑い 楽しく過ごせる時間を大切に」した支援に努めている。花見やクリスマス会等年間行事も実施し、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望や状態、天候に合わせて、車イス対応の方にも、一日1回位は戸外に出かけられるよう配慮している。近くの足湯、まわり寿司等、普段行けないところへの外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の研修やミーティング、会議にて正しく理解し、理念にある「安全 安心した環境づくり」の実現に努め、拘束しないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害を全職員で理解し、日中は玄関や他の出入り口には鍵をかけず、自由な生活を支援している。下駄箱のとびらに音がするよう工夫したり、目配り・気配りで外出する人の様子を把握し対応している。行方不明時捜索マニュアルがあり、村の徘徊高齢者ネットワークを組織し備えている。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を記録し、速やかに職員間で検証し、再発防止に努めている。個々のリスクを家族にも説明し同意を得る等、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを整備している。全職員が法人等の救急法に参加し急変や事故発生時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署員の指導の下、昼夜想定避難訓練を実施している。2ヶ月に1回、法人の防災委員や運営推進会議メンバーの協力を得ての訓練も実施し、備蓄・防災セットの準備もできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや季節、栄養バランスに配慮して利用者と一緒に献立を作成し、法人の管理栄養士の指導も受けている。個別に摂取量や体調、嚥下状態等をチェックし、食形態や量を調整して栄養や水分が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い家具や懐かしい民芸品、季節の生花、小学生の手紙、行事の写真等を飾ったり、くつろげる畳のコーナーの設置等居心地よく過ごせるよう工夫している。共用空間にペットが自由に出入りしており、利用者にかわいがられているが、触った手をその都度拭いたりして、排泄・抜け毛等衛生面やペット嫌いの来訪者等への配慮に不安がある。		ペットは利用者に癒しを与えているが、とくに抵抗力の低下した高齢者には注意が必要である。ペットを触った手を洗ったり、ウエットティッシュや消毒スプレー等で清潔にすることが望まれる。またペット嫌いの来訪者に対しては、ケージに入れる・外に繋ぐ等環境づくりへの更なる取り組みを期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談し、箆笥やテレビ、寝具、家族写真、手作りの作品等、使い慣れた物や好みの物を持参してもらい、購入したり、配置しており、本人本位の居室づくりを支援している。各居室には洗面台の設置もあり、居心地よく過ごせ工夫をしている。		